



# 天 籟

— 第36号 —





## 教育後援会 会長

安達 亨

# 運命を切り拓く

「運命」に似た言葉で、「宿命」という言葉があります。

たまに、「運命」と「宿命」、どちらのほうを自分の努力によって変えることができるのか？という質問をすることがあります。「宿命」は変えることができるけど、「運命」は変えることができないなど様々な意見を頂戴します。

実は「運命」は、自分の力に反し、どうしようもない力で支配されていくものではありません。自分の前向きな心の持ち方であったり、たゆまぬ努力によって、自身を正しい方向に変えることによって、今から待ち受けている「運命」を変えていくことができます。

「宿命」とは、一般的に、生まれた年代や場所、環境など自分では選べなかったものや、これまでに経験してきた過去の事象など、変えられないものをいいますが、「宿命」と言えど前向きに未来を見つめたとき、逆境やハンデはマイナスではなくチャンスととらえていくことも出来ます。

では、前向きな心の持ち方とはどういうことなのか？前向きになるための大事なポイントとはどういうことなのか？を考えてみます。

しよう。

日々の生活の中で起こる出来事は、必ずしも自分にとって都合のよいことだけではありません。時には、腹立たしい場面に遭遇することもあります。大切なのは、そうした出来事をどのように受け止め、自らの成長につなげていこうという前向きな心の持ち方です。

では、前向きな心はどのように持てばよいのでしょうか。

前向きになるための第一のポイントとして、身に降りかかった出来事の良し悪しを評価する前に、「そのまま受け止める」姿勢を持つことです。

第二のポイントは、仮に、不運な出来事であっても「意味のあること」と捉えることです。そうすることで、貴重な「学び」が得られ、やがてその人を成長させてくれるでしょう。

前向きな心を持ち、それぞれの夢の実現、目標に向け、たゆまぬ努力で自身の運命を切り拓いていってください。

最後になりますが、皆様のご健勝・今後益々のご活躍を祈念しております。ご卒業おめでとうございます。



## 保護者の会 会長

仙田 朋之

### 想いを繋ぐ

卒業生のみなさん卒業おめでとうございます。  
三年間の学校生活はいかがだったでしょうか？

楽しかった事、嬉しかった事、または辛かった事、悔しかった事、色々な感情があったか  
と思います。誰かと比べる事は良くない事か  
もしれませんが、二〇二〇年新型コロナウイルス  
感染症拡大を受け、部活はもちろん、学校  
に行きたくても行くことができなかつた君た  
ちの先輩がいます。皆さん想像して下さい。  
甲子園に行った野球部はじめ、全国大会に出  
場した部活が沢山あったかと思いますが、コ  
ロナ禍では予選さえ戦う事が出来なかつた先  
輩方がいる事を、今後忘れてはいけないと  
思います。

まず自分の為に頑張る。これはあたりまえ  
とし、皆さんには人の気持ちのわかる人になつ  
て欲しいと願っています。自分だけの事では  
なく、他人の思いも背負い、新しい先でも今  
まで通り頑張つて下さい。皆さんのご活躍楽  
しみにしております。





## 保護者の会 幹事

小川 七重

### 「なりたい自分になれる場所」

大きめの制服に袖を通し、大きな期待を抱いて開星中学校に仲間入りした日から、もうすぐ一年が経とうとしています。

昨年度の学校案内の中で、親子ともに心に響いたのは「なりたい自分になれる場所」という言葉でした。

そして、開星中学校・高等学校の基本理念である「品性の向上をはかり、社会の発展に役立つ有能な人材を育成する」という言葉を学校説明会で耳にしたとき、とても感銘を受けたことを覚えています。

他の中学校よりも一見自由に感じられる校風の中で、各々が自ら考え、判断し、行動する。その積み重ねで自然と「自立」と「自律」の心が育まれているように感じます。また、開星だからこそできる様々な経験や「ヒト・モノ・コト」が充実した環境はとても有意義で、そこから子どもたちの可能性が広がっていくことを期待しています。

同級生、中学・高校の先輩、これからできる後輩、部活動のメンバー、先生方との絆や、学校生活・部活動を通して得る経験は、きつとかけがえのないものとなるでしょう。

恵まれた環境、周囲からのたくさんサポートへの感謝を忘れず過ごしてほしいと思います。

娘は、バレーボール愛が強く「もつと強くなり

たい」「本気でバレーボールに打ち込みたい」という思いから、開星中学校への進学を選択しました。その甲斐あって、先日の大会では初優勝を飾ることができました。なりたい自分に少し近付けたかもしれません。そして、ここからまたチーム一丸となって前進し、どんなチームになっていくのか楽しみです。

保護者としてできる限りのサポートをし、忙しいけど幸せなこの大切な日々に感謝しながら、子どもの成長に伴走していきたいです。

そして、開星中学校・高等学校の全ての生徒さんが、なりたい自分を見つけたたり、なりたい自分への一步を踏み出したり、なりたい自分になれたり、それぞれに進んでいけることを願っています。

開星中学校・高等学校のおかげで、なりたい自分の社会の発展に役立つ有能な人材になれば最高です！





## 保護者の会 幹事 長谷川 亜希子

### いってらっしゃい

「いってきます」

今日も玄関で小さく手を振って学校へ向かった。中学から開星に通い、現在4年生。今は順調に学校生活を送っている彼には、小学校の頃に不登校の経験がある。そんな時、「開星中のオープンスクールに行ってみない？」と誘ったところ、すんなりついてきた。小学5年生・6年生の2年間は度々オープンスクールに参加し、授業や部活動の体験を重ねた。先生や先輩方との関わりの中で学校生活のイメージをつかみ、「開星に行きたい！」と進学を決めた。

入学後は気の合う友人もでき、先生方との良い出逢いもあり、日々の学びや活動の中で少しずつ自信をつけていった。

そんな彼は1年生から弓道部に所属し、稽古に励んでいる。的前に立てるまでの日々は決して短くなく、もどかしく感じることもあったが、顧問の先生が一つひとつ丁寧に指導してくださり、今では凜として弓を引いている。2年生・3年生と2年連続で全国の舞台に立たせていただいた。週2日の活動のほかにも、自主練習や地域の教室・講習会にも参加したりと積極的に取り組んでいる。いつも良い結果が得られれば楽しいが、なかなかそうもいかないのが弓道。どうすればより良い射になるかを考え、次に活かす前向きな姿勢も育つ



てきた。

4年生になり、高校入学式の宣誓で「将来は教員として開星に戻ってきたい」と語った。将来なりたい姿が見えたことで、より意欲的に勉強に向かうようになってきた。出された課題だけをする学習から、自主的に計画を立てて学びを深める学習へと徐々に変化している。つまづきがあっても先生方が丁寧に教えてくださるので、「わからない」を放置することがなくなった。何より本人のペースで楽しんでいる。

「いってらっしゃい」

玄関のドアを閉め、今日も元気に出かけられたことに感謝する。

夢や目標は変わってもいい。迷いも揺らぎも多くのある年頃。開星で過ごす日々が、彼の将来を支える土台となることを願っている。



## 保護者の会 幹事

堀 良子

# 「喜びを分かち、悲しみに寄り添う人へ」

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。

そして保護者の皆様にとっても、ひとつの区切りとなる日を迎えられることと思ひます。

三年間、我が子は友達に会う為に学校へ通っていたと言っても過言ではありませぬ。勉強の面では親として心配になることも多く、学校から電話がかかってくるたびに身構えてしまい、「また何かあったのでは」とビクビクしていたのが本音です。今回、この原稿の寄稿依頼のお電話をいただいた際でさえ、一瞬不安がよぎったほどでした。

おちやらけていて、先生方や友人にもずいぶんご迷惑をおかけしてきた生徒だったと思ひます。それでも毎日学校へ向かえたのは、友達に恵まれ、その中で受け入れられ、大切にしてもらっていたからだと思ひます。

また、真摯に向き合ってくださいました先生方の存在があつたからこそ、ここまで来ることができました。一人ひとりを見て、根気強く関わってくださいましたことに、保護者として深く感謝しております。

この学校で過ごした日々や友人とのつながりが、これから先の人生の中でも、支えになるものになればうれしく思ひます。誰も大切な子供たちです。誰一人かけることなく成長してほしいと、願っています。

